

# こちら危機管理課お天気相談所

～気象防災アドバイザーによるすぐに役立つ気象情報を月1で配信～

※気象防災アドバイザーとは「地元の気象に精通し、地方公共団体の防災対応を支援することができる人材」として国土交通大臣が委嘱した方です。



矢野 良明

## 身近だと、曖昧？ 天気予報用語

日々の生活の中で、何気なくテレビやスマホで天気予報をチェックする方は多いのではないのでしょうか。「晴れ」「曇り」「雨」のマークを見て終わる方もいれば、もっと詳しく知りたいと思っている方もいるかもしれませんね。また、「晴れマークが出ていたから大丈夫と思ったのに、雨が降った・・・」なんて経験、ありませんか？

実は、その天気予報で使われるマークや用語、なんとなく聞き流してしまう気象予報士の解説フレーズにも、きちんとした意味があります。それらを知っておくと、天気予報がぐっとわかりやすくなり、外出の予定や持ち物、洗濯を考えるとときに役に立つと思います。

今回は、基本的な「晴れ」「曇り」の定義から、予報解説でよく耳にする用語の意味も、分かりやすくご紹介させていただきます。

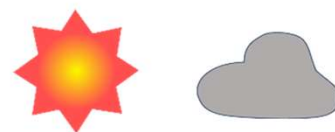
空全体を見渡したときに、雲がどれくらい広がっているか——これを「全雲量」といい、空全体に占める雲の割合を、0から10までの数で表します。

晴れ：全雲量が8以下のとき

曇り：全雲量が9以上のとき

(参考) 快晴(観測用語)：全雲量が1以下のとき

薄曇り：巻雲などでほぼ全天を覆うとき(天気予報では晴れ扱い)



「晴れ」「曇り」の区別は量で決まります。中には、日差しがあるから「晴れ」とか、暗いから「曇り」とおっしゃる方もいますが、それでは夜はすべて曇りになってしまいます。ちなみに、雲がほとんどなくハッキリ晴れている状態を「快晴」(全雲量が1以下のとき)といいます。ただ、これは観測

用語で、天気予報ではふつう「晴れ」に含まれ、基本的には用いられません。また、上層にある「すじ雲(巻雲)」などにより全雲量が9以上ほぼ全天を覆うこともあります。この状態を「薄曇り(うすぐもり)」と呼びますが、天気予報では「晴れ」として取り扱われます。薄曇りの判断は、太陽の光が透けて人・地物の影ができるかどうか一つの目安です。

ただし、気象台での「晴れ」や「曇り」などの観測には、「気象衛星ひまわり」から得られる分解能の高い雲の情報と、昼間は日照計などを含む気象観測装置から得られる情報を組み合わせ、自動観測されるようになってきました。

次は、「一時」や「時々」などの違いです。

回転式日照計



感部の中の一定速度で回転する鏡が、太陽からの直射光をセンサーに反射、一定以上の光の強さがあれば「日照あり」と判断しています。

画像提供：仙台管区気象台

「一時」 例えば「曇り一時雨」、予報期間（明日予報の場合は 24 時間）のうち 4 分の 1（6 時間）より短い時間、雨が続けて降るということを示しています。

「時々」 例えば「曇り時々雨」、雨が降ったり止んだりして、その合計時間が予報期間の 2 分の 1（12 時間）より短いことを示しています。

「のち」 例えば「曇りのち雨」、予報期間の前半が曇り、後半が雨となることを示しています。

「ところにより」 例えば「ところにより雨」、予報対象地域の半分より狭い範囲で雨が降ることを示しています。

スマホやテレビでご覧になる天気予報マークは、各サイトや各テレビ局によって若干異なり、独自のデザインが用いられ、なかには「暴風雨」のマークを用いているところもあります。また、天気予報が 3 時間毎や 1 時間毎に発表されている場合、「一時」や「のち」などは用いられず、天気マーク一つで示されているようです。

気象予報士制度が導入されるなど、天気予報の自由化により天気予報が民間気象会社など気象事業者に解禁されてから 30 年ほど経ちました。今では予報業務の許可を受けている気象事業者は 80 余りになり、民間による気象予報の提供サービスは急速に発展してきています。皆さまがスマホやテレビなどでご覧いただいているほとんどの天気予報は、どこかの気象事業者が提供したものであり、これらをほとんど知ることなく、各サイトで利用できるようになってきました。

予報サービスが拡大し、予報のバリエーションも豊富です。普段、皆さまはどの天気予報サイトやテレビ局をご利用でしょうか？ 使い勝手も含め、皆さまにぴったりの天気予報サイト、お気に入りを見つけてみるのも面白いかもしれませんね。

天気マークの



曇り一時雨



曇り時々雨



曇りのち雨

問い合わせ先 危機管理課計画係 電話 2277

令和 7 年 6 月 4 日  
危機管理課発行